

# 第54回 中高生大会 in 佐用町

8月15日(火)～18日(金)まで、兵庫県佐用郡佐用町にある南光自然観察村を会場に第54回中高生大会が行われました。参加者は55名、大会長は姫路顕栄教会の林真里奈姉でした。今年のテーマは「ハッピーターン」。「中高生大会で得られた幸せが、また来年も戻ってきますように」という想いからこのテーマになりました。

初日は、自己紹介や班ごとの親睦によって、初参加者をはじめ皆の緊張をほぐしながら親交を深めることが出来ました。

2日目の講話では、ゴスペル・ユニット「MAKI & LILY」のコンサートが行われました。お二人の歌だけではなく、「イエス・キリストがいつも傍にいてくださることを感じることで、幸せも感じる事が出来る」というお話もありました。またコンサートでは、全員で「アメイジング・グレイス(聖歌第540番)」

を英語の歌詞で歌い、参加者全員で心一つにする事が出来ました。この日の夕食は、4名の教役者たちが腕を奮ってそれぞれの赴任地の名産品を使って作ったカレーを食べ比べする「カレーコンテスト」が行われ、教役者たちが作った美味しいカレーを皆でいただきました。

3日目は、班対抗の大運動会が行われ、全員で思い切り身体を使い、夕食後にはキャンプファイヤー、肝試しなどを行なって、楽しい時間を全員で過ごすことが出来ました。

最終日には、磯崎久主教によって聖餐式が執り行われました。礼拝後、引き継ぎ会が行われ、来年は徳山聖マリア教会が本部となる事が決まりました。

中高生大会は、中高生たちが1年を通して自分たちの力で築き上げるキャンプです。本大会も、本部教会である姫路顕栄教会の中高生たちをはじめ、多くの方々の支えによって大会を行うことが出来ました。お支え下さった皆様、本当にあり

がとうございました。参加者全員で心一つにする事が出来ました。この日の夕食は、4名の教役者たちが腕を奮ってそれぞれの赴任地の名産品を使って作ったカレーを食べ比べする「カレーコンテスト」が行われ、教役者たちが作った美味しいカレーを皆でいただきました。



がとうございました。参加者全員で心一つにする事が出来ました。この日の夕食は、4名の教役者たちが腕を奮ってそれぞれの赴任地の名産品を使って作ったカレーを食べ比べする「カレーコンテスト」が行われ、教役者たちが作った美味しいカレーを皆でいただきました。

## 召命黙想会

「神様との対話」  
20年ほど前、中村豊司祭(当時)に誘われて神戸教区の召命黙想会に参加した。召命黙想について何もわからなまま宝塚の御受難修道会黙想の家で過ごした。なにをどうすれば召命感が得られるのかと勘違いし、どのようにすれば黙想が出来る



のかと最後までわからないまま過ごし、最後の分かち合いの時に「召命黙想会」という名前が付いているのに、召命について何もわからなかった、黙想というものが良くわからなかった」と生意気なことを発言したことを思い出す。

20年経ち、ふたたび御受難修道会黙想の家で過ごした。「召命かも知れない」という自らの体験と思いを抱き、常日頃から黙想を大切にして過ごしている今の私。2泊3日の滞在は、短いと感じるほどに充実した黙想の時を過ごせた。京都教区の小林聡司祭による黙想講話を聞き、同時代を共に教会で生活してきた者として共感し、それぞれの地にお

## 吉田雅人司祭 東北教区次期主教に選出

8月19日(土) 東北教区第99(臨時)教区会において教区主教選挙が行われ、神戸教区の吉田雅人司祭(現ウイリアムス神学館館長)が次期東北教区主教に選出されました。

主教会の承認と本人の承諾によって主教被選者となります。

「隅の親石」として大切な働きが出来るよう、神様との対話の時間を大切に過ごした2泊3日だった。  
(教区神学生ルカ 宮田 祐三)

いて起こった出来事や体験に、自らを重ねて、思い返しながら、これからの歩む道について黙想をした。小林聡司祭のメインテーマは「隅の親石」だった。捨てられた石、捨てられた者が隅の親石になる。「神様に応えるということ」というイメージをお書き下さい」と言われ「ゆだねる」「信じる」と書いた。捨てられた石が隅の親石として大切な働きになる。神様を信じ、自らをゆだね、御心にかなう働きが出来るよう、神様との対話の時間を大切に過ごした2泊3日だった。